

子どもたちの声

- ・ 自分がジャーナリストとなり、初めて会った方に取材、インタビューしたことがとても難しかった。記者の方は、いつも大変な仕事をしていることが分かった。友だちがたくさんできて良かった。(小5男)
- ・ 初めて本格的な新聞を作るので、取材はとても緊張した。また、池上さんに質問されたことに答えることができなかったので、インターネットで調べてみたい。参加してとても楽しかった。(小5女)
- ・ 取材と新聞の編集の難しさが分かったが、できたときの喜びも分かった。新聞記者の方の仕事や苦労、楽しさが分かった。(小6男)
- ・ 新聞を作ることは大変だったけど、みんなと協力して、世界に一つだけの良い新聞を完成させる事ができた。池上さんに自分たちで作った新聞を見ていただき、ほめていただいたり、指導していただいたりしたことが嬉しかった。(小6女)
- ・ あさか野窯で志賀さんの現状を取材させていただいた。絵付けの体験もさせていただき、相馬大堀焼きの良さが分かり、素晴らしい体験ができた。池上さんにはなかなか質問ができなかったが、話を聞いているだけでとても感動した。来年も、ぜひ、参加し、新聞作成の技術を学びたい。(中1男)
- ・ 取材に行ってみて、自分が思っていたことと違うことが多々あり、びっくりの連続であった。また、取材をとおして、福島の実状と、取材の大変さや喜びが分かった。また、池上さんの話の中でジャーナリストになった理由を聞くことができた。その中で、「夢は叶わなくてもそれに近い仕事を知らず知らずに行っている。」という言葉があり、自分の将来に希望を持つことができた。(中1男)
- ・ 取材をとおして、コミュニケーションや礼儀を学ぶことができた。また、編集作業では、物事を様々な向きから見ることや意見を交換し合う大切さを学ぶことができた。ジャーナリストや新聞のことだけでなく様々な事を学ぶ事ができた。
(中2女)
- ・ もっと福島についての情報を本県や他県の人に伝えたいと思った。新聞社に入社することを目指しているので、新聞記者の方からの指導は大変参考になった。
(高1男)
- ・ 取材する内容を決める難しさ、何を焦点に置くかを考え、一致させることが必要だと思った。人に聞くことの難しさとコミュニケーションの素晴らしさを感じた。また、限られた文章の中で、最大限に伝えることの難しさが分かった。(高1女)